

◆経済倶楽部講演会第4314回（12月20日）

2020年への視座

—世界経済の構造変化と日本の進路

（二財）日本総合研究所会長
寺島実郎

- * 英国のブレグジットで何が変わるのか
- * 日本の埋没という現実
- * 現場力への関心が急速に低下
- * 加速する全体知を失ってゆく環境
- * 時価総額に見る驚嘆すべき格差
- * 日本の株価は水膨れ状態
- * ITを工業生産力モデルで理解した日本
- * ますます重要になるデータイズムの活用
- * 香港問題を「大中華圏」の視点で考える
- * 中東問題に凝縮されたトランプの失敗



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は今年最後の講演会でして、ここしばらく毎年最後は寺島実郎さんに締めていただくというところでやっております。2020年を見据えて日本の今後はどうあるべきか、どうなっていくかについて大きな視点からお話しいただきます。ご紹介の必要はないと思います。それでは寺島さんよろしくお願いいたします。（拍手）

英国のブレグジットで何が変わるのか

寺島 先週1週間ロンドンを動いています、12日の総選挙を目撃しながら帰ってまいりました。令和という時代が5月に始まって半年が過ぎようとしています。相変わらず外を動いています、考えてみるとアメリカ東海岸、西海岸

特に今年夏は7月にシリコンバレーに入り込んでいて、その後、バンコクからロンドンと、今年夏は3回欧州に行くことになりましたが、香港、シンガポール等動いて、国際会議、シンポジウム等で様々な人と向き合ってきました。年を越そうとしているとき、私が今本気で思っていることを皆さんにお話するのが役割だと思っております。

「世界の構造変化と日本の進路」というタイトルで毎年私が触れていたのがロンドン・エコノミストの新年展望です。ここにちょうど出たばかりのロンドン・エコノミストの来年の展望という小冊子を持ってきました。ロンドン・エコノミストは1987年からこういう小冊子を出しています。『The World in 2020』です。冷